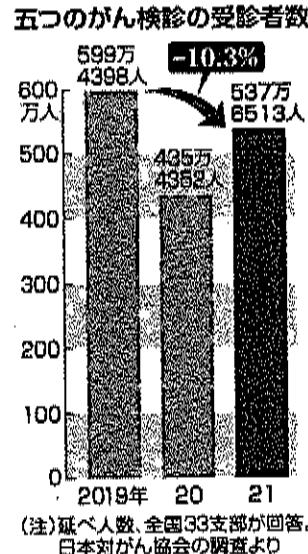


4/4 木曜

がん検診 依然低水準

21年調査 感染拡大前に戻らず



2021年に胃や肺など五つのがん検診を受けた人は、新型コロナウイルス感染拡大前の19年より約10・3%少ないことが4日、日本対がん協会（東京都中央区）の調査で分かりました。20年よりは増加しましたが、受診控えなどにより依然低い水準が続いているます。

協会は今年2～3月、自治体実施の住民

年	受診を受託する全国42支部に受診者数などを質問。33支部から回答を得ました。	21年に胃、肺、大腸、乳、子宮頸（けい）のがん検診を受けた人は、感染拡大が始まっ
2019年	た20年より約23・5%増えましたが、19年と比べ約10・3%減となり、感染拡大前のレベルには戻っていませんでした。	人が最も大きい約13・
2020年	21年の各検診の減少幅（19年比）は、胃が	2%で、肺がん約11・0%、乳がん約9・9%が続きました。月じに見ると、いずれも「第5波」に見舞われた夏ごろは大きく落ち込みましたが、秋以降は19年とほぼ同じ状態にまで回復しています。ただ、検診でのがん発見率などから考えると、約600人のがんが見逃された恐れがあるといいます。
2021年	21年は、検診数の伸び悩みについて、国民の受診控えや、第5波での医療逼迫（ひっぱく）による受診者制限などが要因と分析。小西宏プロジェクトディレクターは「20、21年と連続して受診を控えた人もいると思われる。検診で見つかるがんの約6割は治る可能性が高い早期がんなので、今年度こそ受診してほしい」と訴えています。	0%、乳がん約9・9%が続きました。月じに見ると、いずれも「第5波」に見舞われた夏ごろは大きく落ち込みましたが、秋以降は19年とほぼ同じ状態にまで回復しています。ただ、検診でのがん発見率などから考えると、約600人のがんが見逃された恐れがあるといいます。